

## 取組の概要

## 対象畜種

牛

## 協議会構成員

畜産農家、耕種農家、真室川町農業協同組合、真室川町山形県農業総合研究センター畜産試験場、山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課

## 飼料用米生産面積

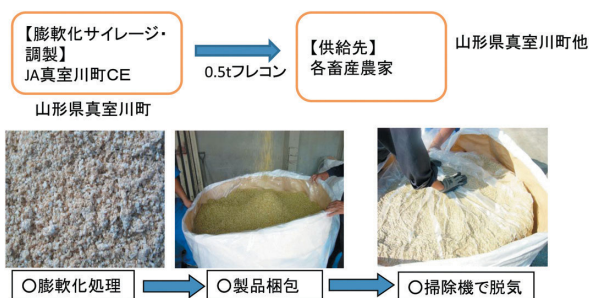
6.6ha

## 供試品種

べこあおば 0.9ha  
べこごのみ 1.9ha  
その他主食用品種 3.8ha

## 取組内容

## ①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆主食用米との区分を図るため、生産者は組織に限定した栽培。
- ◆収穫物はコントリーエレベーターに全量集荷
- ◆JA CEにおいて、膨軟化サイレージの加工を行った。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査  
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：

肥育牛への給与試験は、肥育前期時に配合飼料に

5%ほど混ぜて給与した。また、繁殖牛では、分娩後泌乳期における給与と発情回帰への悪影響がないか、分娩後の繁殖牛に給与した。給与量は、配合飼料の20%~40%を代替して給与した。酪農家では、搾乳牛への給与で、搾乳牛へ悪影響がないかを実施した。

調査項目：給与牛への影響

嗜好性に優れ、飼料価値の高い自給飼料であることが、わかった。

給与の注意点は、発酵初期にアルコール臭が強くなり、このときに開封すると空気中で変異しやすく、アルコールが有害なアセトンに変化することがわかった。この為、給与する際は、2ヶ月以上おいてから給与を始めると、乳酸が増加し、変廃を抑制することができた。TMR給与では牛の摂取量が良くなり、製造後時間のたったTMRの嗜好性が悪くならない効果があった。

## ③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

- ◆飼料用米解説のパンフレット作成
- ◆牛肉産直会場で使用する飼料用米解説パネルの作成

## 取組によってわかったこと

## 1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 膨軟化処理について、大きな問題もなく処理することができた。また、CE本体のプラントは使用しない為、異品種混入の問題もなく、新規需要米の収穫確認も容易にできた。
- 1日の処理量が、1ha程度なので生粗の貯蔵が必要。先にサイレージ梱包するか、サイロ等の検討が必要。
- 夏場は、2日位で変廃するので、TMR調整し効率的な給与方法が必要。
- 調整、加工流通経費ではもう少しコストダウンを図りたい。(1kg/15円程度)
- 物流コストをかけず地域内で取組めれば、エネルギー単収の高い低コスト自給飼料ができる。

## 2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 飼料価値を測定する給与試験をしていないが、推定のTDNを策定している。(DM中70~75%)  
実際給与して、繁殖、肉用牛ともに悪影響はなく、配合飼料の代替として十分な飼料価値があることを確認した。また、酪農家では、給与している牛群のコンディションが良い為、数値以上の栄養価があるのではないかと